

トウモロコシとショウユ1粕を配合したラップサイレージの乳牛への給与

畜産試験場

岸本 勇気、家木 一

トウモロコシとショウユ1粕の飼料利用の促進を図るため、それらを配合して調製したラップサイレージの乳牛への給与の影響を検討した。試験処理として、コーン・ソルガム混播草に原物比 30%のトウモロコシ+ショウユ1粕サイレージを配合したもの(試験区)およびコーン・ソルガム混播草のみ(対照区)をそれぞれ原料とする2処理のラップサイレージについて、乳牛への給与の影響を調べた。試験は、ホルスタイン種乳牛4頭を用い、予備期10日間・本期4日間の2×2スイッチバック法で処理の差を比較した。なお、試験区では基礎飼料の圧入トウモロコシ、大豆粕および綿実の一部をトウモロコシ+ショウユ1粕で代替した。その結果、TDNとCPの摂取量は、試験区で有意に低下した( $P < 0.05$ )。乳量は処理間で差がなかったが、試験区の乳タンパク質率が対照区に比べて有意に低下した( $P < 0.05$ )。血液成分は、処理間で差がなかった。以上のことから、トウモロコシ+ショウユ1粕のサイレージ原料への配合割合は、乳牛の養分摂取の点から、原物比30%よりも低くすることが望ましいと判断された。

畜種：牛、分類：畜産技術